



市民創世会
大門 嘉和 議員

「めがねのまちさばえ大使」仮面女子について

鯖江市では「仮面女子」を「めがねのまちさばえ大使」に任命している。果たして、鯖江市の顔である「大使」にふさわしいのか。

問 来年度予算に仮面女子とのコラボレーション事業700万円が計上されている。その概要とは。

答 市内のイベントへの参加、また漆器を取り入れた短編映画の作成などを考えている。また、鯖江・丹生消防組合の50周年記念大会への出演などを予定している。また、メンバーのSNSでの情報発信にも期待している。

問 仮面女子を起用することに違和感、嫌悪感を抱く市民は少なくない。仮面女子を「めがねのまちさばえ大使」に任命した経緯とは。

答市長 電気通信大学の先生から、AIを活用して作詞を手掛けた縁で、地方創生に熱心なアイドルということで紹介された。地方自治体は地域間競争の中で差別化できる事業が喫緊の課題である。ちょっと奇抜であることは十分承知しており、奇抜だけに発信力も強いと感じ起用し、ふるさと大使に任命した。

問 仮面を前面に打ち出す地下アイドルに

地震災害に向けた小中学校の防災教育の取組について

問 児童・生徒に対する防災教育の目的は。

答 ①防災のために事前に備え行動できる能力。②被災しても乗り切る能力。③社会を復興し立て直す能力。④人や地域の安全を支える能力を身につけ、防災に対して能動的に取り組むことができる児童・生徒を育成することを目的としている。

問 防災教育の中で、児童・生徒がボランティア精神を培う活動は。

答 防災危機管理課や消防署、地域の関係機関、団体等との連携・支援を通して防災教育プログラムや避難訓練、総合防災訓練を実施する中で児童・生徒がボランティア精神を育てている。例えば小中学校では、災害時に限らず福祉施設での買い物介助を通してボランティア精神を培っている。中学校では、水防訓練に参加して土のうを実際につくって災害時助け合い適応能力を培う教育を行っている。

問 各小中学校に配布してある災害時に自主避難の参考となるサポートガイドブックを防災教育で活用できないのか。

答 今後は、防災担当部局と連携してサ

ついて、どのような見解か。

答 アイテムとして使う仮面は一見奇抜だが彼女たちの個性であり、話題性にもつながっている。めがねのまちさばえのPRだけでなく、新たな大学との連携の橋渡し役など、大きな貢献をしていると考えている。地方創生推進交付金事業が平成31年度で最終年度になる。コラボレーション事業は一区切りとする。新たなPRの検討に努め、より効果的になるよう考える。

意見 イベントやインターネットでの演出など、青少年への影響も懸念され、仮面女子が鯖江の大使としてふさわしいかどうか、今一度冷静に考えるべきである。

そのほかの質問

○公共施設使用料の改定について

ポートガイドブックを活用した防災教育を実施していく。



改正動物愛護管理法について

問 今回の改正法の特徴は、飼い主や動物取扱業者に終生飼養の努力義務化と自治体に引き取り拒否の権限を与えたことで、全国的に犬・猫の引き取り数や殺処分数が大きく減少している。改正動物法を受けての、本市における犬・猫の殺処分数の現状と取組の進捗は。

答 平成26年度以降、丹南地区における犬・猫の殺処分の事例はない。飼い主の責任ある動物飼育の基本として、また殺処分をなくすために、適正飼養・健康管理・糞尿の後始末・しつけ等をしっかりと行い、終生飼養に努めてもらえるよう、今後とも、福井県動物管理指導センターと連携しながら啓発に努める。



公明党
遠藤 隆 議員